

三重県私費外国人留学生奨学金留学レポート

チンダガンさん

三重大学工学大学院 建築学科

2019年1月更新

・専攻している科目の学習内容について書いてください。

平成 30 年度の後期、三重大学工学大学院建築学科においては、主に建築、都市計画分野に関しては、建築都市人間工学特論、建築史特論の授業を受けました。また、毎週のゼミで、自分の研究内容について報告しています。11 月 28 日に建築学科の国際シンポジウムに参加し、ポスターで発表しました。建築都市人間工学特論では、人間の身体・認知を中心とする諸特性とそれに基づく人間工学の広がり勉強し、建築、都市の領域における実際の対応事例を勉強し、対策としての建築計画・まちづくり・都市計画やその運営管理の方法について学びました。建築史特論では、日本の歴史的町屋・町並の発展、研究史について学び、既存の町屋、町並について、その技術的、意匠的特質や構成を理解しました。

・夏休み等の長期休暇には、どのように過ごしていますか。

長期休暇では、私の研究室で日本建築学会大会に向かって、論文投稿と論文発表の準備をしています。論文投稿は 4 月で、冬休みは論文を書いています。その間に、短期旅行もします。去年は、白川郷に行きました。4 月に投稿した論文を 9 月の大会に発表するので、夏休みは論文発表の準備をします。今年の日建築学会大会は仙台で行いましたので、発表は終わった後、仙台周辺にも短期旅行をしました。私は歴史的環境の保全について研究しているので、ある地域の町並みの保全を見学することも重要と思います。

・クラブやサークル活動をしていますか。

現在はクラブやサークル活動をしていません。自分の趣味は撮影、レコードの収集と絵画ですので、普段は自主的にやっています。もし、自分の趣味と合うクラブがあれば、嬉しいと思います。

・出身国では、地震が起こりますか。現在、地震に対する備えをしていますか。

出身国は中国です。中国は広いので、地震が起こる地域もあります。しかし、ふるさと内モンゴル自治区ですので、地震が一回もないと言えませんが、本当に少ないです。日本に来て、初めて地震が起こるのはどんなことをわかりました。地震に関する「防災実践基礎特論」と「防災実践基礎演習」の授業を受けましたが、地震に対す

る知識はまだまだ足りないと思います。自分の部屋でも地震用備蓄品は不足であり、今後も備えるべきです。

・その他、ご自由にお書きください。

大学院に入って、そろそろ 2 年になります。三重県私費外国人留学生奨学金のおかげで、授業料の心配なく、この 2 年間で過ごしたと思います。心から感謝しています。日本に来る前に、三重県のことを初めて聞きましたが、今は三重県を第 2 ふるさと感じます。三重大学の海をみんなは綺麗ではないと言っていますが、初めて、海を見た私にとっては大好きです。三重で色々な思い出や初めての経験があります。今後も研究を続けるため三重県に3、4年間いる予定ですので、どうぞよろしくお願いします。

2018年10月更新

・専攻している科目の学習内容、成績について(難しいこと、熱中していること等)

三重大学工学大学院建築学科においては、主に建築、都市計画分野に関しては、建築意匠学と都市経営工学、歴史街並み保全計画などの内容を勉強しました。また、中国内モンゴル自治区と日本の歴史的環境保全計画に関する比較研究をテーマにして、具体的に、内モンゴル地域の歴史文化名城名鎮名村を研究対象とし、歴史的環境の保全と活用、個性を活かした地域再生の方法を研究し、日本の伝統的建造物群保存地区との比較分析を通じて、内モンゴル地域の都市計画と景観計画の特徴と新たな課題、課題に対する解決策を見つけることができると考えています。

2018年4月には、内モンゴル自治区の歴史的環境保全計画における論文を作成しており、日本建築学会大会(東北)に投稿しました。また、9月に仙台で論文の発表を行います。

これからも自分の研究を続けて、博士まで進学するように頑張ります。

・留学によって、自分の中で変わったと思う部分はありますか。

留学によって、勉強でも生活でもたいへん成長することができたと思います。生活としては、個人での生活が始まり、自分の生活を計画や整理するなど、何もできないところから、今はより良い生活を過ごせるようになりました。また日本に来て、初めてアルバイトをしており、生活の大変さもわかりました。

勉強としては、日本語で自分の専攻を勉強することになり、以前は日本語ができないことが原因で成績が不合格にもなりましたが、今では日本語で論文かけるようになりました。その中に色々な大変さがありましたが、日本で留学することができており、人生の中でもすごくいい経験になったと思います。

・本奨学金も含め、一般的に奨学金に関する情報はどのように収集していますか。

奨学金に関する情報については、三重大学の国際交流チームから学生メールで連絡があります。本奨学金も同じように、三重大学の国際交流チームから連絡が来ており、申込みをしました。

2018年3月更新

・専攻している科目の学習内容について書いてください。

三重大学工学大学院建築学科においては、主に建築、都市計画分野に関しては、建築意匠学と地域経営工学、建築計画学特論などの内容を勉強しました。また、中国内モンゴル自治区と日本の歴史的環境保全計画に関する比較研究をテーマにして、具体的に、内モンゴル地域の歴史文化名城名鎮名村を研究対象とし、歴史的環境の保全と活用、個性を活かした地域再生の方法を研究し、日本の伝統的建造物群保存地区との比較分析を通じて、内モンゴル地域の都市計画と景観計画の特徴と新たな課題、課題に対する解決策を見つけることができると考えています。

・日本を留学先として選んだ理由は何ですか。

私は幼いころから、漠然と、日本に留学して研究するという夢を持っていました。内モンゴル工業大学在籍中、三重大学の交換留学生として勉強する機会があることを知り、迷わず応募しました。一年間の交換留学で、勉強でも生活でもたいへん成長することができました。特に日本の歴史的環境保全制度や計画、事例について学び、大学院に進学をして研究を継続したいと思うようになりました。それで、自分の大学を卒業した後、三重大学に来ました。

・留学後の日本の印象は、留学前と比べてどのように変わりましたか。

留学後の日本の印象は、留学前と比べて大きな変化がありませんでした。一番影響が大きいこととしては、日本人の責任感と時間を守ることを心から尊敬しています。私は日本に来たから自分自身の時間の守りと責任感を直面し、大変な成長することができましたが、まだ足りない部分も多いと思います。これからも続いて頑張ります。

・出身地(気候、名所、名産、三重県からの行き方、三重県とのかかわり等)について

私の出身地は中国の内モンゴル自治区であり、幼いころから草原で生活しました。草原では、夏は涼しくて、冬はとても寒いです。日本と比べると雨はあまり降らなくて、乾燥しています。

内モンゴルで、名所としては草原であり、馬に乗ったり、ゲルに泊まり、伝統的モンゴル族の祭りに参加したり、遊牧民族の生活を感じることができます。特に祭りは、モンゴル相撲、競馬、モンゴル弓などの競技が行われます。名産として肉料理、乳製品とお茶です。肉料理は羊肉を中心として、世界の民族料理と比較して、香辛料をほ

とんど使わないのが特徴であり、煮る料理と蒸す料理が中心です。また、乳製品とお茶を紹介すると、お茶は塩味であり、乳を加えて攪拌した茶を飲みます。肉をお茶に入れて飲むことも特徴です。乳製品はモンゴル民族の手作りのバター、チーズなどがあります。

内モンゴル自治区から日本までは本当に遠いから、先に津市から中部空港まで高速船で行きます。次に名古屋から北京まで飛行機で行き、北京から内モンゴルまでは飛行機、電車と車を選択できます。

現在三重大学と内モンゴル工業大学は国際交流協定締結機関であり、毎年内モンゴル工業大学から交換留学生が来ます。私もこの交換留学する機会に、三重大学に来て勉強することができました。感謝しています。

・前期に、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。

私は外国人と日本人の交流のためのセカンドホーム活動に続いて参加しており、みんなと一緒に本当に楽しかったです。しかし、大学院生になり、勉強がいそがしくて、活動に参加する機会が少なくなりました。また、いろいろな機会があったら研究を進めながら参加したいと思っています。

2017年11月更新

・あなたの留学目的は何ですか。

私は幼いころから、漠然と、日本に留学して研究するという夢を持っていました。内モンゴル工業大学在籍中、三重大学の交換留学生として勉強する機会があることを知り、迷わず応募しました。

・専攻している科目の学習内容について書いてください。

三重大学工学大学院建築学科においては、主に建築、都市計画分野に関しては、建築意匠学と都市経営工学、歴史街並み保全計画などの内容を勉強しました。また、中国内モンゴル自治区と日本の歴史的環境保全計画に関する比較研究をテーマにして、具体的に、内モンゴル地域の歴史文化名城名鎮名村を研究対象とし、歴史的環境の保全と活用、個性を活かした地域再生の方法を研究し、日本の伝統的建造物群保存地区との比較分析を通じて、内モンゴル地域の都市計画と景観計画の特徴と新たな課題、課題に対する解決策を見つけることができると考えています。

2017年4月には、内モンゴル自治区の歴史的環境保全計画における論文を作成しており、日本建築学会大会に投稿しました。

・現在の大学に入学するにあたり、どのような手続きやテストが必要でしたか。

三重大学大学院工学研究科博士前期課程に進学するとき、入学試験が必要です。

私は日本語と入学試験を準備するため、研究生としては半年勉強しました。入学試験には面接、TOEIC 試験、専門試験(都市計画、建築計画、建築史)が含まれています。

・留学校を決めるにあたって利用した資料や機関はありますか。

私は日本に留学した契機は内モンゴル工業大学から交換留学生として三重大学に来ました。一年間の交換留学で、勉強でも生活でもたいへん成長することができ、また大学院に進学をして研究を継続したいと思うようになりました。三重大学以外は特に機関はありませんでした。

・現在の留学校に決めた一番の理由は何ですか。

内モンゴル工業大学で勉強している時に、三重大学の交換留学生として勉強する機会があったため、一年間の交換留学で、勉強でも生活でもたいへん成長することができました。特に日本の歴史的環境保全制度や計画、事例について学び、大学院に進学をして研究を継続したいと思うようになりました。それで、自分の大学を卒業した後、三重大学に来ました。

・昨年度、あなたが関わった国際交流・貢献活動について教えてください(ボランティア活動など)。

私は外国人と日本人の交流のためのセカンドホーム活動に参加しており、みんなと一緒に本当に楽しかったです。しかし、大学院生になり、勉強がいそがしくて、活動に参加する機会が少なくなりました。また、いろいろな機会があったら研究を進めながら参加したいと思っています。